



no.2

「大丈夫」のチカラ

サークルくれよんは毎週月曜日と第二土曜日にあります。月曜日は幼児さんのお母さんが中心で、土曜日は幼児さんのほかに学童さんのお母さんも参加しています。そんなある日の月曜日にめずらしく学童さんのお母さんから参加したいとの電話があり、いつもとは違うメンバーでお茶会が始まりました。そしてこの日の発起人の学童さんのお母さんが、最近困っていることやいろんな思いを園長に話しました。

赤ちゃん返りをしているのか、下の子のように甘えてくる。そうかと思えば下の子を叩いたりつねったり、そしておばあちゃんや曾おばあちゃんまで攻撃の手が伸びる。骨が弱いから折れるんじゃないかと心配にもなる。突然泣いたり、突然叫ぶので下の子がびっくりする。外に出かけたいけど、突然叫んだりすれば周りの人が驚いたりするし、お父さんは下の子を連れてなんとなく離れてしまい、出かけるのも億劫なようだ……その他、学校での先生の対応、自分自身のことなどを伝え、また、「そういえばずっと前にこういうふうにしなさいって園長に言われてたな」と、最近よく思い出しているとも言っていました。

ところどころで園長が的確にアドバイスをしていました。家でできること、コスモスでできることなどを踏まえながら。つねったり叩いたりするのはきちんと口で「叩けば痛いんだよ」と伝えて止める。もちろんそのときに同じようにつねったり叩いたりして教えるのはダメ。わかるまで、100回でも1000回でも何度も。「わからないんじゃないかな」と負けてはいけないう親の気持ちは必ず子どもは見抜くもの。自閉の子は特にそう。ダメなときは押さえつけても、ねじ伏せてもやる。そして必ず上からの目線でお話する。これからどんどん体が大きくなるんだから、その前にやらないと。あまりにも暴れるときはコスモスで1時間くらい抱きとめ(ホールディング)してもらって。出掛けるのも、堂々と行きなさい。ジャスコにだって！もし他人に何か言われたりしたら「うちの子は自閉です」とはっきり言いなさい。お父さんが離れるのも気持ちは分かるけれど、喧嘩してでも分かってもらって。親のそういう(人前で一緒に居たくない)気持ちを子どもは何も言わずともわかっていて、その抵抗で家族を困らせるような行動をしているのかもしれないんだよ。あなたたちのそういう行動を見て下の子も同じようにお兄ちゃんに接するようになるよ。それに下の子の進む道は親が決めては挙げられないんだから。でも、健常の子どもと違って、弱さのある子どもは親がその子の進む道を決めてあげられるんだよ。お話ができなくても、自分のことを自分でできて、みんなと一緒に過ごせる、これだけでできればどこにいてもかわいがってもらえる。それはあなた達親が亡くなったあとも……書ききれないほどのたくさんのアドバイスでした。

お母さんの思い、園長の思いが聞いている私たちにも深く伝わってきて、みんな涙が止まらなくなりました。園長には「あんたたち、何泣いてんの！？」と一蹴されてしまいました(笑)。「こうやって話に来て、それとコスモスに任せておけば大丈夫だから！！」

「『大丈夫』って言われるのってすごいいいよね。やる気が出るし、前向きな気持ちになるし。頑張ろうって思う。それに自分自身にも言い聞かせられるし……」逆になら『がんばって』って言われると力が出ない。こんなにがんばっているのにまだ足りないの？とか、ムリしちゃいそうだし……」

子どもを持つ親は、常に迷い、悩みながら子育てをしています。最初から完璧には誰もできるはずがないのです。親は子どもに育てられ、子どもとともに成長していると思います。それは、どんな子どもでも同じなのでしょうね。立ち止まったときには「大丈夫」と誰かに言ってもらい、そして自分自身に言い聞かせてみると、元気・やる気などの不思議なチカラが出てくるはずですよ♪